



TITLE:

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 83

AUTHOR(S):

---

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 83. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1959, 83: 25-31

ISSUE DATE:

1959-08-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186970>

RIGHT:

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興会

## 水族館月報

No. 83

1959. 7月 (8月10日)

### 録 事

オ1集で好評を博した「海の生態しやしん集」のオ2集は4日の終りに印刷と終って印刷元アール印刷株式会社より総計1万部納入済みのところ、(いよいよ)7月1日と期して水族館より発売することとなった。オ2集は 1. こばんざめ, 2. かごかきだ(), 3. まつがさうお, 4. 水槽中の色とりどりの魚, 5. (い)とさきひとで, 6. せみえび, 7. おにやどかりと共生する(い)そぎんちやく, 8. 海中の花園 — (い)そばなと(い)ほやぎの群の8枚よりなり、1・3・4・5・6・7は山路委員の水槽内での撮影により、その他の2・8は原田研究員の附近海中での撮影によるものである。

実験所では例年の如く、各大学の臨海実習が開始され、また単独研究者の来訪が相次ぎ多忙ときわめる。

7月21日 新任理学部長友近普教授が初視察に見え、宮地所長、生駒事務長、山本技術課長が同行された。

増改築計画中の水族館は冷暖房設備を含めた新構想を取り入れた新しい設計図ができあがり、山本技術課長より披露された。新計画によると、概算工事費が2700万円以上となり、これを実行にうつすとすれば建設資金の一部を他より融通する必要が明らかとなった。

英国に留学することになった原田研究員のために7月10日社行会を催し、同君は16日神戸、20日香港までのフランス船に便乗し横浜港を無事出発した。前途の平安を祈る。

布施委員夫人良子さん(水族館会計掛)は23日身出度く初の女児をもうけられた。心からお祝い申しあげる。

7月27日・28日 山路・布施両委員は島根県の依頼による中ノ泊干拓計画予備調査のため松江市に出張した。

---

前号（No.82,13ページ）に既報した株式会社番所山植物園との新取決書を（別紙1）として添付したので、査読各位の御承認と御願ひ致します。

本号の発行が意外に遅延したこととお詫び申し上げます。

## 業 務 概 況

### ◎ 7月の入場者数

区 分		大 人		小 人		合 計	
		本月会計	累 計	本月会計	累 計	本月会計	累 計
水族館発売	個人	4,542	25,824	545	2,252	5,087	28,076
	団体	10,403	38,471	—	—	10,403	38,471
交通公社発売		5,241	18,312	—	—	5,241	18,312
明光バス発売		11,504	59,648	522	1,606	12,026	61,254
合 計		31,690	142,255	1,067	3,858	32,757	146,113
無 料	清水校交換学習児童				他	190	448

団 体 : 一般 94組 学生 34組 計 128組

### ◎ 7月の事業収入

観光券売上金 (今年度累計)

交通公社券売	234,555	1,448,390
交通公社クーポン	34,060	304,076
明光バス観光券	—	930,000*
預金・積立金利息	37,066	271,101
雑 収 入	275	41,540
魚 巻 拂 下	30	830
総ほかき拂下	31,310	69,110
計	337,296	3,065,047

※ 明光バス観光券未収分 動・植・水共通大人券 33,088 枚  
 全 上 小人券 3,681 枚  
 植・水共通 大人券 10 枚

### ◎ 7月の支出

水族館運営

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	94,934	425,794	
会 計 費	5,220	68,284	
備 品 費	6,960	25,460	

消 耗 費	42,090	86,066	
事 業 費	42,474	218,906	
維 持 費	44,860	87,470	
其 他 諸 費	30,023	113,869	
積 立 金	104,095	648,400	
合 計	370,656	1,675,249	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研 究 費	—	70,000	
奨 学 金	—	12,000	
備 品 費	1,650	116,087	
消 耗 費	—	—	
刊 行 費	—	—	
役 務 費	—	22,550	
合 計	1,650	220,637	

博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	40,575	131,185	
備 品 費	—	15,000	
消 耗 費	—	—	
役 務 費	—	1,860	
合 計	40,575	148,045	

臨時費

支出なし

支出合計

水族館経費	370,656	1,675,249
実験所経費	1,650	220,637
博物館経費	40,575	148,045
臨時費	—	50,000
計	412,881	2,093,931

◎ 7月現在高

前日よりの繰越	1,046,701
今日の収入合計	337,296
今日の支出合計	412,881
現 在 高	971,116

◎ 前年度との比較

	1958	1959	増 減
入場者数	22,384	32,757	+10,373

## 水族館記事

◎ 漢師から講入しためばしり動物は次の通りである。

1. 11日 腕を含めて約 70 cm の大きなマダコ。
2. 30日 体長約 1.5 m のウシエイ。(25日死亡)
3. 26日 体長約 45 cm のコバンザメ。ふかん水槽に入れてまもなく、ドクザメの体側にくっついて泳泳しはじめた。

◎ 19日 オトヒメエビを5尾高島の北側で採集し、No. 20 の水槽に入れた。

◎ 20日 ホウキムシ 約 100 個体と煙島で採集し、No. 1 の水槽に入れた。

◎ サンゴイソギンチマクを2個体上部に採集し、24日にクマノミ1尾を笠島で採集したので、No. 6 の水槽に一緒に入れ、共棲の状況を観察できるようにした。

◎ ハニウミトサカは附着している岩ごと採集しなければなかなか飼育することは難しいようであるが、水槽中のものに根を降して石に附着しているのが最近みられたので、今後も生きつづけるものと思われる。

◎ イバラヒトデ<sup>腕</sup>が最近よく切れているので、その原因を注意していたところ、ボウシュウボウがその腕を巻きこんで切っていることがわかった。今後、巻貝とヒトデ巻は一緒にしないように仕掛けねばならない。

◎ 小さい餌をとる動物のために、肉挽機を23日に講入した。

◎ 7月31日現在、観覧水槽<sup>1</sup>に收容飼育中の動物は総計 118 種、921 個体以上で、その内訳は次の通り。

カイメン類	1 種	マダカリ類	2 種
ヒドロ虫類	1 "	カニ類	8 "
ウミトサカ類	1 "	アメフラシ類	3 "
ヤギ類	3 "	二枚貝類	2 "
イソギンチマク類	6 "	巻貝類	5 "
イシサンゴ類	6 "	タコ類	1 "
ハナギンチマク類	1 "	ウミシダ類	3 "
ホウキムシ類	1 "	ヒトデ類	5 "
カブトガニ類	1 "	ウニ類	7 "
エビ類	8 "	ナマコ類	4 "

ホヤ巻  
軟骨巻

1種  
2種  
硬骨巻  
カメ巻

43種  
3種

## 資 料

- ◎ 7月の気象 (9時観測)  
南水槽室 (水温・比重はNo.24水槽)

	上旬	中旬	下旬
晴天日数(15)	5	2	8
室温(℃)	$\frac{28.9 \sim 25.9}{27.7}$	$\frac{27.3 \sim 26.0}{26.6}$	$\frac{29.1 \sim 27.0}{28.4}$
水温(℃)	$\frac{27.30 \sim 24.54}{25.93}$	$\frac{26.69 \sim 24.57}{25.75}$	$\frac{27.32 \sim 25.80}{26.77}$
比重(γ <sub>15</sub> )	$\frac{25.49 \sim 24.51}{24.95}$	$\frac{25.32 \sim 20.24}{23.13}$	$\frac{25.21 \sim 24.45}{24.88}$

取入口

水温(℃)	$\frac{28.10 \sim 25.24}{26.87}$	$\frac{26.80 \sim 25.00}{25.96}$	$\frac{28.00 \sim 25.70}{27.39}$
比重(γ <sub>15</sub> )	$\frac{25.53 \sim 24.39}{25.00}$	$\frac{25.56 \sim 23.12}{24.60}$	$\frac{25.62 \sim 24.58}{25.10}$

## 来 訪 録

- 7月15日 青森省三商店石田進——常務、知見技術部員来所(新增設計画の水族館に設置する冷暖房装置の説明と現物下見のため)。  
7月24日 京都市清水校6年生児童及び父兄190名(白糸校との交換学習のため来白)。  
7月28日 みさき公園自然水族館荒賀忠——掛長(魚巻の採取と水中撮影のため)。

昭和34年8月10日

(No. 83)

編集兼  
発行者

内海 富士夫

発行所

瀬戸臨海実験所振興会  
和歌山県白浜町  
瀬戸臨海実験所内  
(Tel. 白浜515)